

様式第2号（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称		第2回川島町高齢者福祉計画及び介護保険運営推進協議会
開 催 日 時		令和6年2月13日（月）14時から16時
開 催 場 所		川島町役場 大会議室
議 題		(1) いきいき福祉プラン（案）について (2) その他
公開・非公開の別		公 開（傍聴者0名） ・ 非公開 ・ 一部非公開
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	委員	青木委員、中田委員、松本委員、山口委員、濱中委員、片岡委員、山田委員、田代委員、山下委員、吉田委員、神田委員、湖中委員、川上委員
	事務局職員	健康福祉課 石川課長、友野主幹、石島主査、伊藤主事
配 布 資 料		会議次第、資料1
審議会等の内容・概要		
<p>1. 開 会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>（事務局より議事に入る前に、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。なお、会議録を公開するが、発言委員名は記載しない旨で委員より了承を得る。）</p> <p>（1）いきいき福祉プラン（案）について</p> <p>（事務局にて資料1を用いて第1回協議会を踏まえた修正、町民パブリックコメントの結果に基づく修正、追加で修正した部分の説明。）</p> <p>会 長：気づいた事、質問等あれば意見を願います。</p> <p>世帯構造に関して、状況や変化の様子についてわかると良い。人口の変化と共に世帯構造もつけてもらえると、川島町のことがわかるのかと思う。</p>		

委員：世帯の話に関連するが、子供がいるから大丈夫という世帯であっても、子供に障がいがある場合は、話したくても話せない状態になっている場合がある。相談にのりたくはあるが、踏み込むのも簡単な話ではない。そういった家庭を拾い上げて、自然と相談できるような仕組み作りがあると良い。

会長：相談対象の高齢者より、その家族の方に支援が必要なケースは往々にして存在する。

委員：訪問看護をしても、診ている高齢者より、お子さんの方に支援が必要だという例はある。やはり直接見ないとわからないこともある。対象の方だけでなく、家族全体をみていく必要はあると感じる。

委員：独居や課題の家族は増えている。最後の看取りをした後、手続きする方がいない方も想定できる状況になっている。施設入所後、施設生活が大変な方も増えている。

委員：家族がいなくて頼る人がいない。遠くて助けてもらうことができない。家族の理解が得られないことは多々ある。昔よりもそういう人は増えていて、ケアマネやヘルパーの負担が増えていくのは感じる。

会長：今回の計画では、地域で支えるまちづくりをめざしてというサブタイトルがついている。現場では、お金にならない部分で時間と労力を費やし「支えあい」が成り立っている部分はあると感じる。

委員：ひとつの世帯に複数の問題があることが増えている。例で言うと祖母が認知症で父が精神障がい、子供が学校に行っていない世帯のように、多様化、複合化した問題が増えている。複数の専門家が関わっている問題に対して、誰がどの問題に対応していくのかを調整する支援をしている。こういった複合した問題は1件の対応時間は長くなることが多く、すぐ対応しないといけないケースも多い。ひとつの問題に重みがあると感じると共に、件数が多くなっているのも感じている。

委員：高齢者や障がいのある方は家に引きこもってしまうことが多い。そういった方を細かく見ていく必要がある。

委員：夫婦世帯で子供はいないが元気な高齢者が自分なのだと思う。今はいいが、いざ支援が必要になったときどこに相談すればいいのかはっきりしていないのが気になるところである。

委員：生活してる中で徐々に体力が落ちていくから、何が問題なのか、自分でわかって

いない人は多い。もし専門の方、行政の方に相談したら適切なところに繋いでくれると思う。ただ一般の人は専門の人に言わないといけないという意識がある。とりあえず声をあげるという意識作りを町全体でできるとよい。

会 長：高齢者に問題があると思ったら家族全体で支援が必要だった。専門の場所に適切に繋いでいく必要があるケースは川島町において増えている。今回の計画でいうとどこがこの話の部分か事務局に教えていただきたい。

事務局：重層的支援体制整備事業というものが総合的課題の解決を目的とした事業となる。3ページを見ていただく。全体の計画として川島町総合振興計画があり、その一部として川島町地域福祉計画がある。またさらに細かく分けたものに今回議論している高齢者福祉計画・介護保険事業計画や障がい者計画やこども・子育て支援計画が存在する。重層的支援体制整備事業は川島町地域福祉計画でメインに扱う事業になってくる。また、重層的支援体制整備事業だけを扱う計画も策定済である。ただ、分野を超えた事業であるため高齢者福祉計画・介護保険事業計画でも関連して扱い、34ページに掲載している。先ほど出た問題で、どこに相談していいかわからないというものがありませんでしたが、ふくし総合相談窓口に相談してほしい。周知の部分が足りないことは確かであるため、周知に関して計画に盛り込みたいと思う。

会 長：計画と現場に温度差があるのはいつの時代でもある。介護でいうとケアマネジャーさんが高齢者以外の関係の仕事もしていて大変だと感じる。このあたりを考慮した計画作りをしていただくと良い。

委 員：ふくし総合相談窓口について、広報には毎月載せていて、チラシなども作っているが行き届いていないため、周知に力を入れたい。

委 員：区長さんとかいるが、そこに周知や相談活動等はしているのか。

委 員：区長さんに対して負担軽減するという傾向である。来年度から回覧を無くすという動きもある。地域によって温度差はあるため、すべてとはいかないが可能であれば直接相談もしていいとは考えている。

委 員：住民は自分から言えないため、向こうから来てほしいという気持ちはある。自分の地域だと近所の方が話をして、困っている方がいたらどうにかしようという意識がある。そういった吸い出しのようなことをしてもらいたい。

委 員：地域でそういう動きがあるとこちらでも動きやすくてありがたい。周りの方の声の

おかげで解決に向かうケースもある。

委員：全体像を掴まないと対策を練るのは難しい。重層的支援体制整備事業もある程度情報を集めてからやらないと、スムーズに進まないかと思う。社協さんや民生委員さんの人も限られている中ですべての対応や情報収集をするのは難しいため、地域の人たちの協力を得る仕組みづくりが必要だと思う。

委員：現代の特徴として、プライバシーなことは聞かないのが暗黙のルールとなっている。そんな中で住民としてできることは、町民同士で出た課題解決に繋がりそうな話題は社協に繋ぎ、少しずつ問題を見つけていくことなのではないかと思う。ほんの一部に過ぎないであろうが、地域全体に広げていき、少しでも課題解決になればと考える。

会長：いろんなアンテナが必要だと感じる。世代によっても考え方は変わる。地域によっても変わってくる。いろんな方向から情報をキャッチできるようになると良いと感じる。

委員：活動の場は広げているが、参加する人がいないという状況。民生委員さんが社協や町に繋いでくれているのは感じる。PRが上手くいっていないのが現状。

委員：今活動している人たちが、年を重ねて退会しているのは感じ、入ってくる人は少ないため減っているのは感じる。

委員：困りごとを吸い上げるといのが大事という話が出ているが、自分に置き換えて考えてみると、知らないところで問題が浮き彫りにされるのは嫌だと感じた。やるにしても、入り口の部分は神経質に考えてもらいたいと感じた。

会長：自分は元々東京に住んでいて、川島町に移住してみて、区長さんがいて、回覧があるというのは独特だと感じた。ただイベントに参加すると繋がりが増えて、近所のことを気に掛けるようになった。窓口はたくさん作りつつ、プライバシーにも気を付けていくべき。

委員：近所同士で話せる人話せない人、若い人、高齢者で温度差がある。近所には話したくないけど、第三者には話せるという人もいる。今の窓口がどんどん増えていく状態は良い方向にいったるのではないかと思う。

委員：手を差し伸べてもらっているのを気づける体制は整えて欲しい。

委員：いろんな人がいるから、いろんな対応法、いろんな対応する人がいていいと思う。詮索しすぎもよくないが、ただ受け入れの体制はやはり整っていないといけな

い。

委員：意見をまとめて反映できるようにしたい。多種多様な町民がいる中で、ひとつひとつ丁寧に対応し、いろんな方法で解決、周知できるよう努めたい。

会長：自助、互助、共助、公助の中で、川島町は自助、互助のネットワークが上手く形成されているのではないかと思う。

委員：重層的支援体制整備事業でたくさん解決してもらったケースがある。これからどんどん増やしてもらえば、川島町もいい方向に向かっていくと思う。

委員：水害に関して、防災計画では「町外に逃げてください」というガイダンスになっている。事務局の考えを聞きたい。


事務局：基本的に町外避難をお願いしている。防災対策室と連携して福祉個別避難計画を作成している。在宅で寝たきりの方に対して個別にどう逃げるかの計画を立てている。自力で逃げることができる人には防災カードというもので計画を立ててもらおうようにしている。

## (2) その他

事務局：本日いただいた意見を反映して完成させる。今後の流れとして3月議会において介護保険条例の改正案を提出。議決後3月下旬に計画の印刷製本。製本後お渡しという形となる。

また、今回で川島町高齢者福祉計画及び介護保険運営推進協議会はいったん終了となりますが、今後については、別途相談させていただく。

## 4. 閉会

署名	山口 孝夫 
	山田 一志 